

「YouTube 動画」ご紹介

昨年（2022年）のYouTube動画第一弾「野菜栽培の達人の畑に行ってみたら!？」では、コマツナやナスなど全作物、そして太陽熱消毒に石灰窒素を使用する篤農家をご紹介します。



第一弾「野菜栽培の達人の畑に行ってみたら!？」



第二弾「ジャンボタニシ撃退方法！国産石灰窒素や浅水管理」

今年は8月30日に第二弾「ジャンボタニシ撃退方法！国産石灰窒素や浅水管理」を公開しました。

水稲作でスクミリングガイ防除を目的に石灰窒素を散布し成果を上げているJA耕種部会をご紹介します。ぜひ、ご覧になってください。



撮影時の様子①（2023年7月12日）



撮影時の様子②（2023年7月12日）

「みどりの食料システム戦略と国産石灰窒素との関わり」ご紹介

近年、気候変動、生物多様性、SDGsをはじめとする環境への意識の高まりとともに、社会全体を持続可能なものにしていくことが求められています。

農林水産省は、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現するため、「みどりの食料システム戦略」を策定しました。

この戦略では、将来の日本の農業のあるべき姿を見据えて、農林水産業にともなう輸入原料や化石燃料を使用した化学肥料の使用量、温室効果ガス排出量、化学農薬の使

用量を減らすといった環境負荷の低減策を掲げています。

国産石灰窒素は、これらの低減策に関わることができます。

2050年までに目指す姿	国産石灰窒素が関わるができること
① 輸入原料や化石燃料を使用した化学肥料の使用量を30%低減	輸入原料や化石燃料を使用した化学肥料の使用量の低減が可能 ・国産原料（石灰石）と空気中の窒素が主原料 ・化学肥料の使用低減が可能な「肥効調節型肥料」に認定
② 農林水産業のCO ₂ ゼロエミッション化の実現（温室効果ガス排出削減）	①石灰窒素の稲わら腐熟促進により、水田からのメタンガス（CH ₄ ）発生を低減 ②石灰窒素の施用により、茶園・畑地からの一酸化二窒素（N ₂ O）の発生を低減
③ 化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減（総合的な病害虫管理体系の確立・普及）	「太陽熱・石灰窒素法」で、化学農薬の使用量の低減が可能